連合教職大学院生通信

令和４年１２月号
Vol.４

ブログ掲載版

発行元：大阪市教育委員会事務局教育政策課
大阪市教育センター

教職大学院で学びたい！　学ぶ内容はどんなものだろう？
あの先生の授業を受けてみたい！

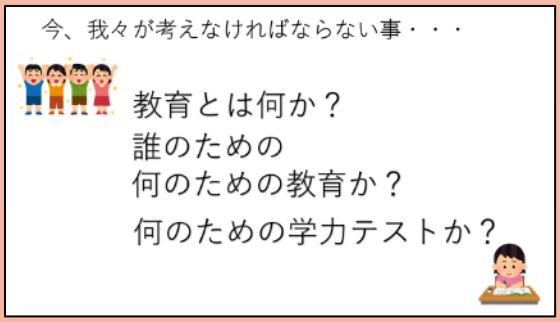
　教職大学院の授業で学ぶことにより、日々の実践に役立てることができます。学んだことを生かすことができると、モチベーションを高めることにつながります。また、子どもにとっても教員の学びが還元されることになるため、学校の中に好循環が生まれます。
　多くの先生方は「教職大学院では、どのようなことを学べるのだろう」という疑問をお持ちだったり、「自分にとって難しい内容の授業なのではないか」と考えたりしていらっしゃるかもしれません。
　今回の院生通信では、教職大学院の「スクールリーダーシップコース」と「援助ニーズ教育実践コース」の授業内容についてご紹介します。教職大学院での学びをよりイメージしていただけると思います。是非ご覧ください。

スクールリーダーシップコース科目
コース必修科目

スクールリーダーシップの理論と実践

担当：田村　知子先生

　皆さんは、「リーダーシップ」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか？ 特別な人材のみが持つカリスマ性、資質を思い浮かべる方が多いかもしれません。この授業では、「PM理論」「変革的リーダーシップ」「文化的リーダーシップ」「分散型リーダーシップ」・・・と、本紙で挙げきることができないほどの理論をご教授いただけます。リーダーシップにも様々なものがあり、「どんな考え方？」と興味がわいてきたのではありませんか？
　学校及び地域における新たな教育課題を解決するため求められる優れたリーダーシップの在り方を探求し、スクールリーダーに必要な資質能力を高めるための理論を学ぶことができます。また、理論を学ぶだけでなく、実践事例を分析したり、自らの実践を省察したりできるように構成された授業で、明日からの教育実践にすぐ生かせます。
　また、教育委員会や管理職を経験された先生方をゲストティーチャーとして招聘し、実践的なお話を伺ったり、日本の教育の現状と将来について議論する場が設けられていました。院生の学びがより深まるよう、授業前には論文や書籍に触れられるような環境を整えてくださっていました。
　皆さんもこの授業を通して、自らがめざすリーダーシップのモデルを見つけてみてはいかがですか？



院生が講義内で作ったプレゼン資料

援助ニーズ教育実践コース
コース必修科目

社会環境と子どもの心身の理解

担当：庭山 和貴先生
新崎 国広先生
野田 航 先生

この授業では、さまざまな社会的な環境の変化が、子どもたちにどのような影響を与えているのかを明らかにしながら、子どもの視点に立って課題を見つけていきます。また子どもを援助していくための知識や方法を学ぶことができます。貧困、虐待、不登校、発達障害などの「困りごと」について、「だから勉強ができないのか」、「だから落ち着きがないのか」などと教師の困りごとを納得するための「原因」として捉えるのではなく、どんな支援ができるのかを見極め、さらに、環境を変えていくことを考えていきます。これまでの授業で、発達障害、不登校、ひきこもりなどの最近の知見を取り入れた基礎知識を学び、応用行動分析学の理論を用いて考えたり、地域福祉との連携を探ったりしながら子どもたちを取り巻く環境について考えてきました。

この授業の魅力は、応用行動分析学・ポジティブ行動支援を専門とする庭山先生と野田先生、社会福祉士としての実務経験があり、ソーシャルワークや福祉教育が専門の新崎先生によるオムニバス形式の授業が行われることです。それぞれの先生が専門とされている分野について、院生に余すことなくお話ししてくださり、最新の知見や理論に触れることができます。教員として、そして現代社会に生きる大人の一員として、自分にできることは何かということを考える時間になると思います。

講義の様子

研究科共通科目
必修科目

生徒指導と教育相談の実践的課題

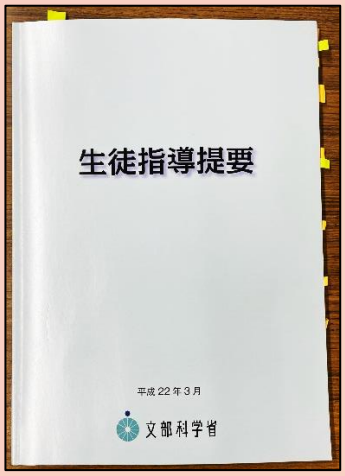
担当：家近 早苗先生
餅木 哲郎先生

生徒指導と聞いて、みなさんはどんなイメージをもたれますか？ 学校では、子どもの問題行動と向き合う場面も少なくないので、どうしても問題行動への対応が生徒指導と考えてしまいがちです。本授業では、狭義の生徒指導から広義の生徒指導へと捉えなおし、学校現場における子どもの心理的・発達的問題の基礎的理論やそれに基づく対処方法について学びます。

授業の最初の課題では、生徒指導の定義をまとめました。「生徒指導提要（2010）」では、生徒指導を「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」と定義しています。この課題を通して、生徒指導がいわゆる問題行動対応だけに限らないことを学び取ることができました。

本授業では、生徒指導の理念について理解し、生徒指導上の現代的な課題から実践的な知見を身につけることをめざしています。例えば、いじめや不登校が起きてしまった時、私たちはどのような援助を行う必要があるのか。また、いじめや不登校を未然に防ぐためには、どのような学校をつくらなければならないのか、具体的な事例をもとに、考えを深めていきます。様々なケースから学ぶことで自身の教育実践を振り返ることができ、まさに理論と実践の往還を実感できる授業です。

今年は生徒指導提要の全面改訂もあります。次年度は新しい『生徒指導提要』を鑑みた授業が展開されることと思います。…もう一度受けたい!!
そう思える授業です。これから教職大学院で学ぶ皆さまも、安心・安全な学校づくりのために、ぜひ本授業で学びを深めていってほしいと思います。



生徒指導提要（2010）

研究科共通科目
選択必修科目

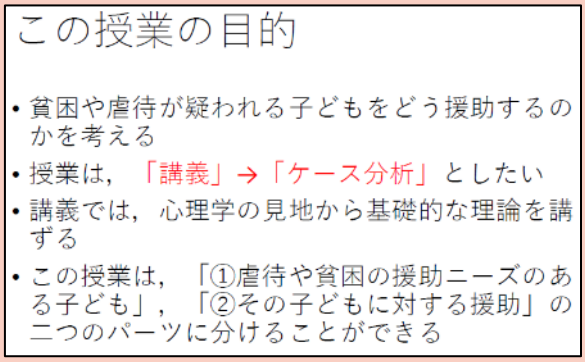
子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践

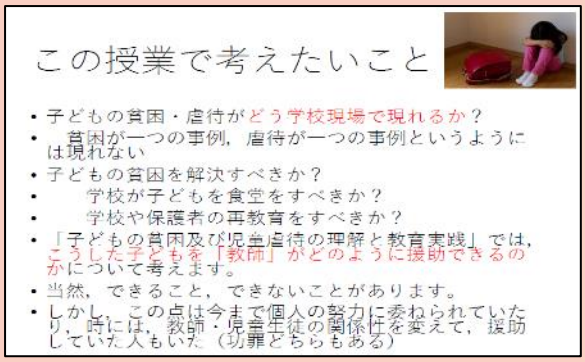
担当：水野 治久先生

授業前半では、日本や諸外国の教育現場における貧困と虐待の状況や貧困と虐待が児童・生徒に及ぼす影響について学びます。特に、心理学の知識と技法を学び、授業後半へとつなげていきます。講義担当である水野先生の学校現場での支援経験をもとに、理論と実践の実態について学びます。

授業後半では事例分析を通して実際にどのような対応を行うべきかについて、前半で学んだ知識をもとにして院生でディスカッションします。事例の内容は現在の学校における課題とつながっており、自身の教員としての力量を高めることにつながったり、貧困と虐待についての深い理解につなげることができたりします。また、現職教員が実際に体験した出来事を事例として扱い、自分が様々な立場で対応することを想定しながら、学び進めていきます。

本授業の中で、学びの深まりを最も感じられる部分が事例検討の中での「質問タイム」です。当該児童や保護者になりきった水野先生に質問を行いながら、状況を読み解くロールプレイを通して、実態に即した学びがどんどん深まります。全15回を終えるころには、新たな視点で対応できる力が身につくこと間違いなしです。

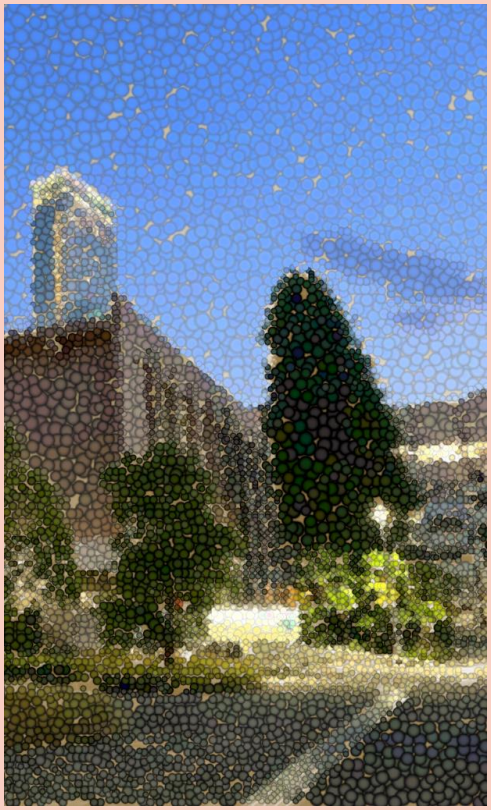




「子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践」で扱う講義資料

編集後記

今号では教職大学院に通う1回生が大学院の授業をご紹介しました。私たちにとって授業内容は今までの経験に基づいた発見の連続です。学校現場で疑問に思っていたことや課題として抱いていたことが、実は現在研究されているということがあります。これまで自分の中で漠然としていたことを、「言語化され、整理された理論や知見」として学ぶことになり、「そうだったのか！」と納得することがあります。これは現場で働きながら教職大学院に通う醍醐味の一つだと思います。

私たちは教育現場の課題解決に向けた方策を、実践課題研究を通して考えていきます。研究の方向性がなかなか定まらず悩むこともありましたが、教職大学院の先生方や先輩のアドバイスを受け、また同期のメンバーで悩みや喜びを共有しながら研究を進めています。

そして現在、教職大学院に通う私たちが学業と職務の両立を図ることができるのは、所属校の管理職の先生方をはじめ、教職員のみなさまのご理解・ご協力あってのことです。これからも感謝の気持ちを忘れず、教職大学院での学びを進めていきたいと思います。